

授業改善プラン

地域名	葛南教育事務所	学校名	習志野市立第六中学校
-----	---------	-----	------------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

- 学校平均は、毎年度全国平均を上回っている。
- 正答率が50%を下回っている問題が「関数」と「資料の活用」にある。
- 記述式で無解答率が高いものが、全ての領域にある。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

1. 基礎学力を定着させることにより、汎用的な能力が身につくであろう。
2. 生活に密着した学習内容を取り入れ、ICT機器の効果的な活用や指導方法を工夫することにより、意欲の向上につながるであろう。
3. 授業のまとめを自分の言葉で表すことを習慣化することにより、理解が深まり、達成感や充実感を得られるであろう。

3. 具体的な実践

- 全ての領域で、日常生活と関連した内容を取り入れ、生きる力を育むための授業改善、学力向上を図る。
- 事象の数学的な解釈に基づき、問題解決の方法を説明する活動を充実させるため、以下の研究視点をもとに、授業を行う。

校内の研究視点をもとに、授業を行う。

- | | | |
|----------------|----------------------------|------------------|
| 視点1 学習活動の工夫 | ①課題設定、課題提示 | ②実生活と結びついた学習内容 |
| 視点2 学習過程の工夫 | ①基礎・基本（基礎学力や基本技能等）の定着 | |
| 視点3 場面設定の工夫 | ①話し合い、教え合いの場 | |
| 視点4 学習形態の工夫 | ①個人、班・グループ活動、一斉 | |
| 視点5 評価の工夫 | ①自己評価の仕方（振り返り活動・まとめ、評価カード） | |
| 視点6 ICT機器活用の工夫 | ①全体でICT機器を活用する場面 | ②個人でICT機器を活用する場面 |

*具体的な取組 【別添資料1～6】

4. 成果

- 研究視点をもとに授業計画を立てることで、授業の流れ、ポイントを押さえて、授業を行うことができた。
- 生徒に粘り強く問題に取り組む姿勢が見られ、説明やまとめを自分の言葉で表すことが、少しずつだが抵抗なくできるようになってきている。

◆担当指導主事から（葛南教育事務所 指導主事 川口 斉之）

小学校の教科書を活用し、小・中の学習の連携を重視した教材研究が、導入での生徒の「見通し」に有効に反映されていた。また、指導案に校内研究の視点1～6や『『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム』のどのポイントを意識して授業を展開しているのかを明記しているため、教師の意図している「授業改善」がどのようなものなのかが分かりやすく、その成果や課題についても協議しやすいものとなっている。